

「あったかfe」に訪れる人たち

「あったかfe」がオープンして11ヶ月。徐々に地域における第3の居場所としての役割が明確になりつつあります。被災した結果、生活の困りごと、家族や人間関係のトラブル、先行きの不安感・・・そんなモヤモヤした感情を持ちながら生活している方が多くおり、「あったかfe」を必要としている人はまだまだ多いようです。

輪島事務所では、「あったかfe」に訪れる人たちの困り感をしっかりキャッチできるように、事あるごとにミーティングを開催しています。

あるスタッフはミーティングでこう話していました。

「被災地支援とは、相手の課題を解決することだけではないですね。むしろ、ゆっくりと時間をかけて生活環境の大きな変化を咀嚼していく方々の横に座り、時間をかけて立ち上がり、歩こうとする姿を見守ることかもしれない」

「あったかfe」は被災された方々の心が落ちつき、ホッとでき、ちょっとだけ思いを吐露できる場所でありたいと思っています。



「あったかfe」で提供している飲み物はコープの商品です



◇地域の相談できるところマップ◇

「輪島事務所」には多種多様な訪問者が訪れます。しかし、ここだけですべての相談を解決できるわけではありません。むしろ、必要に応じて「輪島事務所」から専門機関につなぎ、その方からの相談を解決する「支援の輪」を広げていくことが大切です。

輪島事務所のスタッフが福祉の専門職でないこともあります。数回にわたって、スタッフと各分野の専門機関の方々が顔の見える関係性を築いていく機会を設けました。

またこれをきっかけにして、高齢者、障害者、生活困窮、子ども、医療、行政など、各機関が掲載されている「地域の相談できることマップ」を作成しました。これにより、輪島事務所のスタッフがどんな相談に対して混乱することなく、その後の支援や連携の土台になる情報を見る化することができました。

今後、共生地域創造財団は、必要に応じて、このマップを地域住民にも情報共有し、地域の困り事と専門機関が繋がるきっかけづくりを行っていきたいと考えています。

地域で相談できるところマップ

- 震災後、いろいろな相談ケースが増えている
- このマップを見れば、専門職以外の人たちが相談を受け、どこに繋ぐのか理解できる

震災以降、世帯全体に支援が必要なケース（8050など）が増えてきた。
相談されたケースが重層的のケースだとわかったら、まずは羽村・吉田のどちらかへ相談すること！

